
時ノ剣

落書き師匠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時ノ剣

【Nコード】

N3899U

【作者名】

落書き師匠

【あらすじ】

妖怪ノ王国。それは、妖怪たちが住んでいるところ。妖怪には掟があった。人間には見つかつてはいけないという掟。妖怪は人間が怖い。もちろん、人間だって妖怪が怖い。

妖怪ノ王国には四つの国がある。そのうちのひとつの国、黄昏ノ国の姫は弱虫だった。母を亡くしてから、父に頼ってばかり。父はある決意をし、娘に国を治める役目を渡した。

一 弱虫ノ姫君（前書き）

この小説は、私の夢に出て来たものです。
少し加工してありますが、どうぞ。

一 弱虫ノ姫君

夏なのに涼しい、姫の部屋。

「どうぞ。」

召使いは、姫にココアを渡した。

「ありがとう。」

ゆっくりとココアを飲む。

彼女の名前は、鬼神。オヤシロ妖怪ノ王国の中の大きな国、黄昏ノ国の姫君。美しい緑と青と黒の髪の毛と、真紅の瞳。きれいな青いドレス。亡き母の

ドレスを加工したもの。自慢の水色できれいなネックレスとピアス。どう見ても完璧な姫君。

けれど、姫は極度の弱虫。

父親はそれを克服しようと何度も実験をした。

掃除をやらせたり、家事をやらせたり…。

いろんなことをした。

だが、これらはすべて失敗。父はほかにいい方法はないか…と考えている。

「今日のココアは一味違うわ。ありがとう、ティラミス。」

「いえ、姫のためでしたら…。」ガチャ

と、話の途中でドアが開いた。

「父上。どうなさいました？」

と、鬼神が近寄る。

「今、いいことを思いついた。私はもう長くはない…。だから…お前に国を治める役目を渡そうと思うんだ。」

父上が考え付いたのをいきなり言うのはいつものこと。

だが、今回はいきなりすぎて怖かった。

「わ…私が…！？そんなの…無理です！！」

「無理なことなどない！！！！！！」

その言葉が部屋中に響く。

そうだ…。いつまでもそんなのじゃだめだ。

鬼神はすでに気づいていた。こう言うことは必ず来ると言うことを。

「そう…ですよね…。わかりました！私がこの国を治めて見せましょう！」

そういうと、鬼神は棚にある太い本を一冊出した。

「この本には、亡き母上が残した本です。内容はまだ見てませんが、母上が、私がこの黄昏ノ国を治めるときに、読むがいい。と言っていました。」

父と召使いティラミスは、クスツと鼻で笑う。

「姫、私は姫を応援しますよ。時には手助けをしましょう。」

ティラミスが言うと同時に跪く。

「私がいなくても、頑張るんだぞ。」

「はい！！！！」

ここからが…、私ノ物語。

二年頃ノ姫君

「えっと…これは…」

自分の部屋に小鳥のような声が響く。

姫君は疲れながらも、株や、土地の整理をしている。

妖怪の王国には、コンピューターという便利な機械はないが、書物や辞典がいろいろある。人間界にはないいいものまでもそろえてある。

「姫、お疲れですか？」

彼の名はティラミス。体格のいい人だ。

緑色の髪の毛。後ろで長い髪の毛を束ねている。

目はスカイブルーと、きれいな色だ。

右目の下には長い直線の傷がある。

召使らしい服で、毎日を過ごしている。

「いいえ、大丈夫よ。整理が終わったら、書類を片づけないと…」

フツとティラミスが鼻で笑う。

「たまには休んでくださいよ。姫。」

。。。

「疲れたわ…。」

ベッドの上で横になる。

彼女は、あることに悩まされていた。

「悪魔^{サタン}様…」

それは、銀河ノ国の王子。

年頃の鬼神は、恋に悩んでいたのだ。

「姫？何かにお悩みですか？」

「ええ……。悪魔様。あの人に一度目が合ってから一目ぼれしたのよ。愛たいわ。」

もう一度会うのを願う日々。

一生合わないかもしれない日々。

「手紙……。だわ！手紙を書きましょう！そうすれば、悪魔様だって合いに来てくれるはず！！」

早速手紙を書き始めた。

「願いが届くと……。いいですね。」

。

。

。

「姫様〜！」

白いけれど、少し青い紙……。いや、手紙を持ったティラミスが廊下を走る。

遅いで音響の間へ急ぐ。

音響の間は、声が響く部屋のこと。

姫は毎日そこで働いている。

「騒がしいじゃないの？何かあったかしら？」

電話を切り終わると、ティラミスを見る。

「お返事がきました…！」

ハアハアと息を切らしてまでここに来た。感謝せねばなと姫は思った。

「御苦労さま、ありがとう。」

と言い、中身を空ける。

内容は、いたって普通。

最後の文には、普通とは大間違いだった。

【大好き】

最初は鳥肌が立った。

何度も読み返すと、ほわほわあったかくなっていった。

「この宮殿から抜け出すわよ、ティラミス。」

「本気ですか！？姫様！？」

抜け出すと言っても、散歩っぽいものだ。

「父上には、散歩と言っておけばいいでしょう。」

「ですが…」

まだ何かあるのか？と鬼神がにらむ。

「わかりました。行けばいいんですね？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3899u/>

時ノ剣

2011年10月9日07時54分発行